

『汚れたものに触れるな』 コリント人への手紙第二 6章11～18節 2016.5.22(礼拝説教より)

『…汚れたものに触れないようにせよ。そうすれば…わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしの息子、娘となる、と全能の主が言われる。』 IIコリント 6:17～18

◆パウロはコリント教会に手紙を送り、何度も指導してきたが、彼らの信仰的未熟さゆえに改善は遠かった。「幼子の考え方を捨てて、成熟に向かって進もう」と勧める。キリストを信じた者は、「古いものは過ぎ去り、すべてが新しくされ(IIコリント 5:17)」ている。罪に支配されていた悪魔の子・怒りの子から、誘惑に負けない・聖なる神の子へ、全く新しくされたと自覚したい！いつまでもズルズルと古い習慣を引きずり、汚れや罪と関わることは止めたい！「不信者とつり合わせぬくびきをつけるな(14節)」とは、牛とロバのように、カモペースも全く違うものを結びつけて畑作業はできないように、偶像や世の価値観、汚れを普通に受け入れている者と、聖なる神の民とが、心と歩調も合わせ、一致しては生きられない！『正義と不法に、どんなつながりが…。光と暗やみに、どんな交わりが…。キリストとベリアル(サタン)に何の調和が…。信者と不信者に何のかかわりがある(14～15節)』。まず、聖なる神の子とされたことを自覚したい！

◆『神の宮と偶像に何の一致があるのか(16節)』。神の子は、悪魔の誘惑に勝利する！イエス様が荒野で受けた悪魔の誘惑は3つ。①石をパンに変えよ！空腹をパンで即解決しようとする誘惑！人には、この世の物質的なもので癒えない渇きがあり、「神の口から出る(恵みの、救いの、力の、命の)言葉」でこそ生きる！②次は、奇跡で人を救う誘惑。人は神を信じ、祈の時、『自分の思う通り(合格？成功？病の癒し？…)になるかどうか』を試している。自分の思いでなく、神の御心を知って従う信仰こそが問われる。③最後は悪魔を拜む誘惑…。悪と罪が支配する世で生きる神の子に「多少の汚れは仕方がない！妥協は必要！必要悪はある！」と迫る。自分的には OK、この世的にも皆やって普通…でも、神に見られ、神に聞かれてマズイものは、徹底的に排除する！「神に創られた最高の自分を生きる」ために！

◆汚れたものと決別した神の子に、父なる神は「あなたがたはわたしの息子・娘(18節)」だと語られる。放蕩息子の喩え話で、兄と弟は対照的！弟は道を踏み外すものの、父の優しさや赦しを知り甘えることを知っていたが、兄は従いつつも、父を厳しくケチな人と決めつけ、喜びも感謝もなく、不満と怒りに満ちていた。★あなたは素直で従順な神の子だろうか？世の悪と汚れから離れ、いつも父の懐に憩うて御声を聞き、道を逸らしても、神の赦して慰めの中にすぐに立ち返る者として今日を生きよう！